

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信

2021.8

Vol. 106

●編集・発行／総合東京病院

医療連携支援センター 地域連携室 TEL:03-3387-5444

特集

認知症を理解しましょう
もの忘れが気になったら



認知症疾患研究センター長

羽生 春夫

認知症は高齢者にみられる最も多い病気の1つで、65歳以上の老年者の4人のうち1人が認知症またはその前段階といわれています。認知症の原因として多くの病気がありますが、適切な対応によって治療できるものや進行を抑えることができるものもあり、早期に診断し適切な対応を施すことが重要です。

認知症とは？

多くはもの忘れから始まり、やがて判断力も低下し、進行すると着替えや食事などの生活機能に障害が生じてくるため、周りの人た

ちの介護が必要となってきます。

これは中核症状といわれますが、その他に行動心理症状（BPSD）といわれるさまざまな行動異常や精神症状がみられる場合があります。多くは脳の病気で起こりますが、その中で代表的なものがアルツハイマー型認知症です。

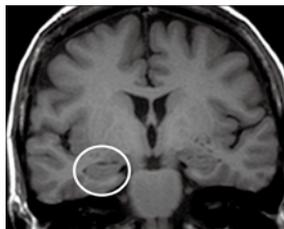
早期発見、早期治療

もの忘れは、健康な高齢者で見られる場合（生理的健忘）から、さまざまな原因による認知症（病的健忘）によって起こる場合まであり、早期診断と鑑別は決して容易ではありません。そこで、神

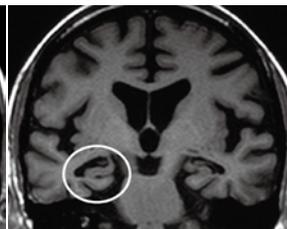
図1 MRI検査

健常者

アルツハイマー型認知症



海馬萎縮なし



海馬萎縮あり

寄附金のお願い

～新型コロナウイルスから患者さんを守るために～

寄附金は、病院の施設や環境の整備、新しい知識や技術などの研究開発、医療スタッフ育成のための経費に活用させていただきます。皆さまからのご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お問合せ

総合東京病院 寄附受付係

TEL: 0570-00-3387 メールアドレス tokyo-hp.kifu@mt.strins.or.jp

詳細はこちら



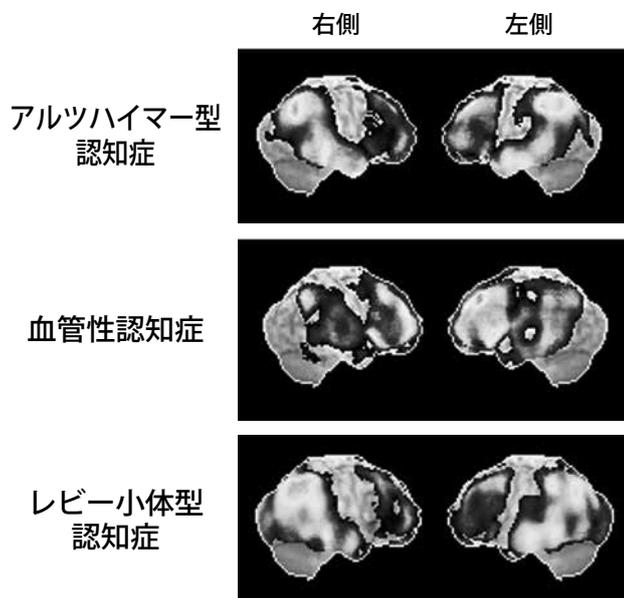
特集 認知症を理解しましょう ～もの忘れが気になったら～

経心理検査（記憶力をみる）や脳の画像検査などの補助検査が行われます。特に、脳梗塞や脳萎縮をみる検査（MRI検査・図1）とSPECTとも呼ばれ、脳の血流低下パターンをみる検査（脳血流検査・図2）を行うと、アルツハイマー型認知症の早期診断や他の原因による認知症との鑑別も可能となります。

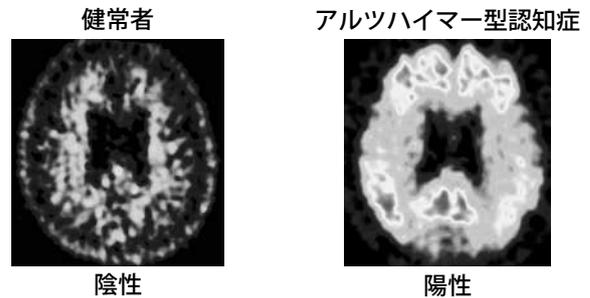
アルツハイマー型認知症に対する特効薬はまだ登場していませんが、進行を緩やかにするお薬はすでに4種類あり、早期から治療を開始すると一定の効果が期待されます。また、ご家族や介護者の方々が適切な対応やケアをすることによって、妄想、興奮、徘徊などのBPSDのコントロールも可能になるので、早期に診断し、適切な治療やケアを行うことが重要です。

図2 脳血流検査

○SPECT



○アミロイドPET



治療可能な認知症

アルツハイマー型認知症と似たような病気で、治りうる認知症もあります。甲状腺機能低下症といった内科疾患や、正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫などの脳外科的疾患はもの忘れで発症することも多く、それぞれ適切な治療や処置によって治るため鑑別が必要です。

もの忘れが気になる場合は？

かかりつけの先生がいれば初めにご相談下さい。直接専門医を受診していただくことも可能ですが、もし何らかの病気で治療を受けている場合は紹介状をもってきていただくことが望ましいです。身体の病気やお薬が認知症の症状に影響する場合があります。

もの忘れ？と思ったら…
「もの忘れ外来」をご受診ください



外来日：火・水・木（午前・午後）
ご予約：0570-00-3387
（予約・相談ダイヤル）